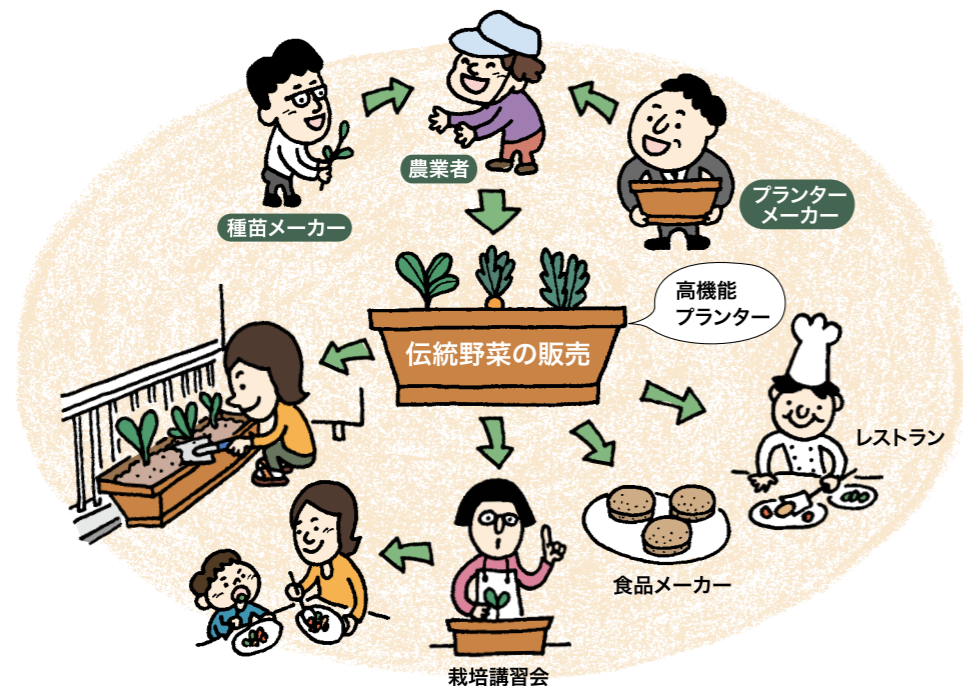


# 家庭用プランターを 活用した地場伝統野菜の復活



- 地場伝統野菜を栽培しやすくする技術の改良
- 高機能プランターで地場伝統野菜の栽培を家庭に普及
- 料理や加工品との組み合わせにより情報発信



## シナリオ

- 栽培しにくいために生産されなくなった地域の伝統野菜を復活させ、地域農業を活性化させたいと考えていた農業者が、種苗メーカー、プランターメーカーと連携して、復活プロジェクトを立ち上げることにした。
- プロジェクトでは、栽培しやすいようにするための技術を改良し、家庭でも気軽に栽培できるような高機能プランターを開発し、伝統野菜の苗とセットにした家庭用栽培キットを商品化する。
- 家庭用栽培キットは、子どもの食育に関心の高い家庭が、庭やベランダで気軽に栽培できるよう、水やりの手間を省き、根の発育を促すシステムを装備し、栽培方法だけでなく料理方法も添付する。
- 普及に当たっては、地域の小中学校や市民センターなどで食育講習を行い、地元レストランや食品メーカーを通じて情報を発信する。

## 役割

### 農業者

- 農産物の栽培ノウハウを活かし、種苗メーカーと共同して伝統野菜の改良を行う。
- 栽培技術の改良後は、伝統野菜の苗を育成し、自ら厳選した土と肥料をあわせてプランターに植え込み、家庭用栽培キットとして販売する。

### プランターメーカー

- 農業者と連携して、水やりの手間を省き、植物の根の発育を促す底面灌水システムを装備した家庭用の高機能プランターを開発する。

### 種苗メーカー

- 病気に弱いなど栽培しにくかった伝統野菜を、味や食感、見た目を変えずに、病気に強くするための改良を行う。

## 効果

### 農業者

- 家庭用栽培キットの販売により、伝統野菜の苗の需要が増加し、農業者の売上げが向上する。
- レストランや食品メーカーを通じた情報発信により、伝統野菜のニーズの高まりが期待できる。

### 種苗メーカー・プランターメーカー

- 家庭用栽培キットの販売により、改良した種苗、高機能プランターの需要が増加し、売上げが向上する。

## Column

### 亀戸大根と食文化

- 亀戸大根は文久年間（1861～64年）に亀戸周辺で盛んにつくられていた大根である。
- 種を守ってきた農家は、冬の太陽熱を上手に取り入れて旬のおいしさを育てるヨシズ栽培の技など、努力と工夫で栽培を続けてきた。
- 亀戸周辺では、商店街の若手経営者グループが「亀戸大根を地域のシンボルに」と、小学校での栽培体験、亀戸大根にちなんだお菓子づくりなどを行っている。
- 料亭は、亀戸大根とあさり鍋をメニューに取り入れ、味噌屋は、味噌漬の加工品を販売するなど地場伝統野菜を使った地域の食文化を発信している。